

所在地	二戸市石切所字前小路
調査原因	新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業
調査期間	平成25年4月15日～11月18日
調査面積	計4,887㎡（内訳は表を参照）
主な時代	平安時代・近世
主な遺物	土師器、須恵器、土製品（羽口等）、石器（磨石 ^{すりいし} 、敲石 ^{たたきいし} 等）、鉄製品、琥珀玉など

平成25年度前小路遺跡調査別遺構数内訳表

調査名	面積 (㎡)	竪穴 住居	竪穴 遺構	掘立 建物	土 坑	小 穴	溝	近世 墓	不明
第24次調査	1,396			4	8	200	1		
第25次調査	528	1			1	15			
第26次調査	1,217	16		2	13	32	4	28	2
第27次調査	966	5	1	4	2	112	5		1
第28次調査	292	3		1	3	31		3	
第29次調査	465					16	2		
その他	23						2		
合計	4,887	25	1	11	27	406	14	31	3

①遺跡の説明

前小路遺跡は平成12年2月20日に新規発見された遺跡です。中曽根遺跡の南側、馬淵川との比高差約15mの河岸段丘上に位置しています。遺跡の中央を南北に市道大村線が走り、それと並行して旧道が川沿いを走っています。旧道はかつての街道で、今は崖の崩落が進み昔よりも道幅が狭まっています。この前小路地区の大きな特徴として、現在の市道大村線の西側を掘るとすぐに水が湧き道路を挟んで東側はまったく水が湧かないというものがあります。これは馬淵川の後背湿地であるのが原因と考えられ、今年度の第26・27次調査では、猛威を奮った台風18号の際、湧水と雨水で遺跡がプールのように冠水してしまいました。

今年度の調査では、昨年の調査に引き続き、竪穴住居跡が多数検出されている市道大村線の東側の6m道路の南側延長部分（第24・26次調査）と、西側の道路沿いを調査しました。竪穴住居跡を中心に平安時代の溝など、貴重な遺構を多数検出することができました。

②調査の内容

前小路遺跡の調査は、新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業に伴う事前調査です。住宅建築、宅地造成等に先立って発掘調査を行ない記録・保存します。今年度の前小路遺跡の調査も、それと同様に、曳家、新築工事に先立って調査を実施しました。

調査は、重機により表土を剥がし、遺構のある面からは人力で掘り下げます。場所によって異なりますが、これまでの調査から、現況より概ね深いところで 80 cm～1m、浅いところで 30 cm～40 cm下げると遺構面が確認できます。

遺構の時期を知る指標として、出土した遺物から判断する方法もありますが、「十和田 a 火山灰」からも判断できます。十和田 a 火山灰は西暦 915 年に降下したことが知られており、その火山灰がどのように堆積したかを見ることで遺構の時期決定のヒントになります。



第 27 次調査作業風景

③調査の結果

主な遺構としては、平安時代の竪穴住居跡が主体で、残りの良くないものを除き、ほぼ同軸であると考えられます。大きさは様々ですが、概ね一辺 4～5mに収まっています。カマドの向きは北と西と東と三方あり、東カマドを壊して西カマド、西カマドを壊して東カマドを製作していたと考えられます。というのも竪穴住居跡にはカマドが新旧二つあるものがあり



第 27 次調査第 46 号住居跡カマド

(左写真参照)、カマドの堆積土や廃棄状況から、カマドを最低 2 回製作していることがわかります。カマドに用いられたアマ石(凝灰岩)も抜き取られています。煙道は住居の壁に穴を開けて作る地下式(トンネル式)と住居の壁を溝状に掘って作る半地下式があります。

今回の調査で、最も貴重な成果は「溝」です。第 24・26 次調査で、平安時代の溝を確認できました。東西に伸びており、西の朝日山から馬淵川へと流れています。底からは土師器や須恵器などがたくさん出土しました。出土遺物や堆積土の類似性から竪穴住居跡群と同じ時期と推定され、雨水や生活用水などの排水や集落を区画する意味合いがあったと考えられます。

近年の成果として、前小路集落が、①馬淵川沿いの緩やかな斜面に位置する②時期は 9 世紀末から 10 世紀初頭である③排水を兼ねた区画溝があった④小鍛冶を行っていた⑤ロクロ土師器・須恵器の使用⑥琥珀・製塩土器など沿岸部の集落との交流があった、などが挙げられます。